



2026年度 日本語教育学会秋季大会

2026(令和8)年11月28・29日/オンライン開催

目 次

開催概要／目次	2
大会日程	3
開催のご挨拶	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	11
同時開催イベント	14

◆今大会の開催方法について◆

2026年度日本語教育学会秋季大会は、全面的にオンライン開催となります。
学会発表については、当日リアルタイムでオンライン発表、質疑応答を行います。
昨年度までオンライン大会開催時に設置していた大会特設ウェブサイトの設置はなくなりました。オンデマンドによるビデオ配信や資料掲示ありません。
大会当日のZoomURL等は、11月27日(金)までに、事前参加登録が完了した方にお知らせいたします。
オンライン開催におけるご参加は、事前参加登録のみとなります(当日受付は行いません)。

◆主催：公益社団法人日本語教育学会

◆大会参加費：

【事前登録 ※お支払い時に別途手数料がかかります】

会員 3,500 円

会員(有効期限付き学生証を提出済みの方) 2,000 円

会員でない方 5,000 円

【当日受付】オンライン開催では行いません。

◆事前登録期間：2026年10月16日(金)～11月15日(日)

◆問合先：

E-mail: taikai-office@nkg.or.jp

TEL: 03-3262-4291

◆大会日程◆

11月28日(土)

* 印のイベントの概要は、14～15ページをご覧ください。

9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00

10:10-10:30
開会式

10:40-12:30
5会場×3発表
口頭発表 午前の部
(各30分)

12:30-13:30
*わかばさん
いらっしやい

13:30-14:40
5会場×2発表
午後の部
(各30分)

14:50-15:50
*賛助団体会員
出展ブース

16:00-17:30
1会場×1発表
パネルセッション
(90分)

11月29日(日)

9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00

9:30-12:00
1会場×4発表 1会場×1発表
口頭発表
(各30分)

12:00-12:40
*説明会
日本語教育
学会

14:30-16:00
1会場×1発表
パネルセッション
(90分)

9:40-10:20
4会場×1発表
ポスター発表
第1部
(各40分)

11:00-11:40
4会場×1発表
ポスター発表
第2部
(各40分)

12:00-12:50
*調査研究
推進セミナー

13:30-14:10
5会場×1発表
ポスター発表
第3部
(各40分)

過去数ヶ月の間に、日本における外国出身者の受入れと日本語教育をめぐるさまざまな政策や施策が一層具体的な姿をみせてきました。現在の外国出身者受入れ政策の検討の枠組みは、本年1月に公表された「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」（外国人の受入れ・秩序ある共生社会実現に関する関係閣僚会議）です。報道されている在留資格の変更・更新手数料の値上げや永住権申請手数料の大幅な値上げや取得要件の厳格化などもその枠組みに沿って施策化されたものです。特定技能制度や来年4月に始まる育成就労制度もこの枠組みの中に位置づけられています。そして、日本語教育関係でも総合的対応策の枠組みでの施策が明らかになってきています。

文部科学省では、概算要求と並行して、子供から大人までの切れ目のない総合的な支援のモデルとして「秩序ある共生社会の実現に向けた日本語教育支援総合パッケージ」を公表しました。このパッケージは、地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業や日本語教師養成・研修推進拠点整備事業などを含む外国人等に対する日本語教育の推進に関する諸事業と、入学前の集中的な日本語初期指導を目的とした新たなプレスクール・プレクラスの構想を含む外国人児童生徒等への教育の充実の2本立てになっています。そして、このパッケージの中の新たな事業の一つとして日本語・生活学習プログラム（仮称）が挙げられています。そして、概算要求の公表に先立って、去る8月18日に日本語・生活学習プログラム（仮称）検討のためのワーキンググループの第1回会合が開かれました。他方、教育機関の認定に目を向けると、令和8年第1回においては過去最多の230機関が申請を行いました。一方で、令和8年4月末時点で認定された機関は累計96機関となっています。

このように日本語教育をめぐる「新しい現実」が着々と構成されつつあります。こうした「新しい現実」の中で実際に日本語教育の実践に携わる日本語教育者はどのような実践を創造するのか、日本語教育研究者は日本語教育者と連携して新たな実践の創造にどのように寄与できるのか、が今問われています。また、海外の日本語教育も、今年の日本語教育国際研究大会での日本語教育グローバルネットワーク・シンポジウムのテーマが「GNが語る『次世代の学習者を育てるために私たちにこそできること』」となっているように、厳しい状況の中、新たな姿の日本語教育が模索されています。

この2日間皆さんとともに、日本に来る外国出身者等に思いを馳せながら、研究的な探究をしつつ、新たな日本語教育の実践の創造について考えたいと思います。

公益社団法人日本語教育学会会長 西口光一

パネルセッション

第1会場

28日(土)
16:00～17:30
(90分)

①

「日本語教育機関認定基準」と「日本語教育の参照枠」の齟齬—生きている学習者の多様な人生から新制度を考える—

亀田美保 (大阪 YMCA 日本語教育センター)

奥村三菜子 (NPO 法人 YYJ)

竹田悦子 (フリーランス)

山本弘子 (カイ日本語スクール)

第1会場

29日(日)
14:30～16:00
(90分)

②

学年縦断型アカデミック・ライティング支援のモデル・ステップ化の試み—学部初年次留学生への実践および縦断事例分析に基づくモデル提言—

大島弥生 (立命館大学)

松本理美 (大阪樟蔭女子大学)

安高紀子 (明治大学)

生天目知美 (東京海洋大学)

三井久美子 (立命館大学)

口頭発表

午前の部〔10:40～12:30（各30分）〕

	第1会場	第2会場	第3会場
	司会： 北出慶子（立命館大学）	司会： 鴈野恵（筑紫女学園大学）	司会： 齋藤ひろみ（東京学芸大学）
10:40～ 11:10	① 生成AI動画を用いたオンライン・アフレコ授業の実践—香港の日本語学習者を対象とした音声教育の試み— 松田健浩（専修大学大学院生）	④ 生成AIはメタ認知支援ツールになりうるか—日本語学校・大学における留学生の使用実態を手がかりに— 佐尾ちとせ（追手門学院大学）	⑦ 地域日本語教育において元学習者が支援者へ至る過程—活動参加の意味変容をめぐる語りから— 張偉祺（関西大学大学院生）
11:20～ 11:50	② トルクメン人日本語上級到達者の学習経験と自己形成—独自の環境における自律的学習のナラティブ分析— Dadayeva Maysa（筑波大学大学院生）	⑤ 日本語受身文における主観的把握の概念発達—コンセプトベースの言語指導とダイナミックアセスメントの実践例— 増田恭子（ジョージア工科大学）	⑧ 日本語音声教材としてのナレーション—原稿に見られる「読みことば」レジスターの言語的特徴— 王伸子（専修大学）
12:00～ 12:30	③ 職場参加を支える入国後講習用日本語教材の開発—『使える日本語コミュニケーション 農業畑作・野菜編』の作成過程— 鍋島有希（桜美林大学）	⑥ ポルトガル人初級日本語学習者の非同期ビデオレター交換活動に対する認識—アンケート調査の結果から— 任めぐみ（ポルトガル国立ミネヨ大学）	⑨ 人口減少地域の地方議会で日本語教育はどのように語られるか—理念と現実の乖離を検証する手がかりとして— 廣川智（新潟大学） 有田佳代子（帝京大学） 木林理恵（国立国語研究所） 古田梨乃（新潟大学）

口頭発表

午前の部〔10:40～12:30（各30分）〕

	第4会場	第5会場
	司会： 大久保雅子（早稲田大学）	司会： 松永典子（九州大学）
10:40～ 11:10	⑩ セブアノ語を母語とする日本語学習者の日本語母音知覚—発音指導に向けた基礎資料を目指して— 竹本亜衣（フリーランス）	⑬ 中国大学日本語専攻生 Can-do 尺度の開発—JLPT・専攻八級聴解試験の内容分析を通して— 張晶鑫（広島大学）
11:20～ 11:50	⑪ 日本語母語話者の意見叙述の構造分析—会話テストインタビューを利用して— 早野香代（三重大学） 坂井菜緒（武蔵大学） 長松谷有紀（桜美林大学） 西川寛之（明海大学）	⑭ ベトナム中部における日本語教育の商品化とその生成過程—アクターネットワーク理論に基づく分析から— 瀬尾匡輝（茨城大学） 小西達也（中国学園大学）
12:00～ 12:30	⑫ 日本語学校において教師研修の運営を担う専任日本語教師の実践参加と認識変容の過程—相互研修型の授業観察の事例から— 野瀬由季子（関西学院大学）	⑮ 東日本大震災を契機にコロンビアへと移動したソラさんのライフストーリー—トランスナショナルで個別的な「わたし」についての語りを中心に— 近藤弘（北海道大学）

口頭発表

午後の部〔13:30～14:40（各 30 分）〕

	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場
	司会： 末繁美和（岡山大学）	司会： 近藤行人 （名古屋外国語大学）	司会： 中山英治（大阪産業大学）
13:30～ 14:00	⑯ JF Can-do（B1）に基づく語用能力育成補助教材の開発—依頼・応答教材を対象とした教師単独条件と生成 AI 支援条件の比較— 甘利実乃（東京外国語大学大学院生）	⑱ 日本語教師の専門性としての「寄り添う」実践再考—「支援的接近」と「先回り支援の抑制」に着目して— 伴野崇生（慶應義塾大学）	⑳ 沖縄県における地域日本語教育の動向と今後の課題—外国人住民構成の変化と日本語学習機会へのアクセスに着目して— 當銘美菜（目白大学）
14:10～ 14:40	⑰ 相互補完型メール文作成支援システム「かもめだより」の開発—既存の添削ルールと AI チェックの融合— 金蘭美（横浜国立大学） 金庭久美子（目白大学） 橋本直幸（福岡女子大学）	⑲ 日本語学の授業における「やさしい日本語」学習が母語話者にもたらす変化—留学生との会話交流と振り返り活動を通して— 新里卓（日本外国語専門学校）	㉑ 自己表現活動を中心にした日本語初期クラスにおける取り組み 榎原智子（吹田市国際交流協会）

口頭発表

午後の部〔13:30 ～ 14:40（各 30 分）〕

	第4会場	第5会場
	司会： 丸山真貴子 (目白大学短期大学部)	司会： ボイクマン総子 (東京大学)
13:30 ～ 14:00	②② 外国人が働く職場での「指示が一度で伝わらない」場面に見る相互行為能力―「修復」による理解の共同的構築の分析― 佐野真弓 (関西学院大学) 谷畑美咲 (同) 森本郁代 (同)	②④ アカデミック・ジャパニーズと日常場面での会話の連続性―口頭表現能力を伸ばす指導項目の検討に向けて― 宮永愛子 (山口大学) 船橋瑞貴 (早稲田大学) 平田未季 (北海道大学)
14:10 ～ 14:40	②③ 接触場面の日本語会話における母語話者の訂正行動 昂燕妮 (名古屋大学)	②⑤ 日本語学習者の熟達度と「良い耳」に関する考察―「The Auditory Precision Hypothesis (聴覚的精度仮説)」および「知覚学習スタイル」の観点から― 渡邊咲 (筑波大学)

口頭発表

第1会場

司会：
衣川隆生（日本女子大学）

9:30 ～ 10:00

②⑥
地域日本語教室ボランティアの学びから考察する
「双方向の学び」—元小学校教員の自己・他者・社
会理解—

瀬井陽子（広島大学大学院生）

10:10 ～ 10:40

②⑦
言語間の境界線の制約を乗り越えるための対話
実践の理論的枠組み—言語イデオロギーの批判的
検討からナラティブ実践の再定位へ—

李思儀（早稲田大学）

10:50 ～ 11:20

②⑧
「移民・難民・外国人」をめぐる CLIL 授業にお
ける内容と言語の統合—対象的関係のネットワー
クの展開と再編成を通して—

包蕊（京都大学大学院生）

11:30 ～ 12:00

②⑨
中国高校日本語課程標準における文化の捉え方
の変遷—2003・2017・2025 年版の記述内容とモデル
指導案の分析を通じて—

于欣田（名古屋大学大学院生）

第2会場

司会：
吹原豊（福岡女子大学）

③⑩
日本語教育における企業訪問活動の実践報告—
学生と企業が共に学ぶ場の創出—

樫佳世（日本大学）
金子匡子（公文教育研究会）

③⑪
読解確認の対話は文章レベルの理解をとらえて
いるか—生成 AI を用いた大規模コーディングによる
検討—

松井佑樹（早稲田大学大学院生）

ポスター発表

第1部〔9:40～10:20（各40分）〕

第1会場

①

AIは日本語教育現場でどのように受け止められているか—中国の大学で日本語教育に携わる教師の認識と活用実態—

松見学志（広島大学大学院生）

松見法男（広島大学）

第2会場

②

話題から語を探す・語から話題を探す『J-TOCC Web』の開発

中俣尚己（大阪大学）

麻子軒（京都外国語大学）

森篤嗣（武庫川女子大学）

第3会場

③

ストラテジー指導と主題対話を組み合わせた授業設計の試み—地域オンライン日本語教室におけるB1相当クラスの実践から—

田代桜子（愛媛大学）

第4会場

④

日本語教師を対象とした質的研究論文の「研究目的」の分類

中西梓（立命館アジア太平洋大学）

末松大貴（名古屋学院大学）

ポスター発表

第2部〔11:00～11:40（各40分）〕

第1会場

⑤

Add-on 講座「旅する方言ラボ～関西弁編～」における教育実践—方言接触研究の知見を活かして—

中村 堯（神戸大学大学院生）
林 良子（神戸大学）

第2会場

⑥

日本語学習者にとって日本語が話せるとはどういうことか—口頭運用能力に関する自己評価—

衣川 明沙（早稲田大学大学院修了生）

第3会場

⑦

外国人散在地域における特定技能外国人の地域定着とネットワーク形成—地域日本語教育の媒介的機能に関する ANT 分析—

古田 梨乃（新潟大学）
平田 友香（国際教養大学）
宮 淑（モンテレイ大学）

第4会場

⑧

学習ツール開発および教師の教育活動等に資する「Jreibun 日本語例文バンク」の構築—収録例文の分析と今後の発展可能性を考える—

鈴木 智美（東京外国語大学）
清水 由貴子（聖心女子大学）
中村 彰（東京外国語大学）
加藤 恵梨（愛知教育大学）

ポスター発表

第3部〔13:30～14:10（各40分）〕

第1会場

⑨

CLIL 授業における留学生の振り返り分析—授業内
と授業後の比較—

徐乃馨（静岡大学）

第2会場

⑩

元建設系留学生の就職後の日本語資源と職場集
団の位置・業務への参加のしかたの変化

柴山俊也（千葉大学）

第3会場

⑪

ゲームで学べる語と学べない語—市販 RPG の語彙
と日本語教育語彙表の比較—

麻子軒（京都外国語大学）

第4会場

⑫

日本国内の日本語学校で学ぶ学習者の感情制御
戦略—質問紙調査の記述面の分析—加藤伸彦（京都外国語大学）
前野文康（日本国際工科専門学校）

第5会場

⑬

日本語教育研究における学会情報収集・スケ
ジュール管理を支援するオンラインツールの開発中川健司（横浜国立大学）
古田梨乃（新潟大学）

わかばさんいらっしやい

[11月28日(土) 12:30 ~ 13:30]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加しているのかな?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などを説明します。大会当日は、動画の内容について簡単に質疑応答を行った後に「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士で交流できる場を用意します。楽しい出会いがあると大会はもっと楽しくなり、大会終了後もネットワークは広がっていくでしょう。

参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんのわかばさんのご参加、お待ちしております。

賛助団体会員出展ブース

[活動紹介・書籍紹介・教材紹介等]

[11月28日(土) 14:50 ~ 15:50]

主催：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、このうち「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO団体等、54団体が入会しています。(2026年9月現在) 賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。ぜひご参加ください。

<出展団体名…キーワード>

- ・ iJapan 株式会社…会話力評価／外部指標
- ・ 株式会社 アスク出版…書籍・オンライン教材の紹介
- ・ 株式会社 アルク…教材紹介
- ・ 独立行政法人 国際交流基金…事業紹介／教材紹介
- ・ 公益社団法人 国際日本語普及協会…書籍紹介
- ・ 株式会社 サインウェーブ…日本語学習アプリ紹介
- ・ 一般財団法人 日本国際協力センター…育成就労モデルカリキュラム／就労分野の日本語教育
- ・ 株式会社 凡人社…日本語教育関連の教材／書籍の紹介
- ・ 合同会社 Logos…AIで教材作成／セミナー

調査研究推進セミナー 投稿への「最初の一步」を描く —2024 年度『日本語教育』論文賞受賞論文執筆者に聞く、 学会誌投稿プロセスの理解と〈つまずき〉の乗り越え—

[11 月 29 日（日）12:00 ～ 12:50]

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

調査研究推進セミナーは、調査研究活動の推進と研究倫理の質の向上を目的としています。今年度のセミナーでは、2024 年度『日本語教育』論文賞受賞論文執筆者の一人である阿久澤弘陽氏を講師にお迎えし、論文執筆におけるつまずき、そしてどのようにそのつまずきを乗り越えたかについて、ご体験から具体的に語っていただきます。本年度は、安心して研究・投稿するため、調査研究を行う際に気をつけるべき研究倫理についても最後にご説明いたします。

当日のスケジュールは以下の通りです。

- ・ 12:00 ～ 12:30 趣旨説明・講師講演
- ・ 12:30 ～ 12:45 質疑応答
- ・ 12:45 ～ 12:50 研究倫理に関する説明（協力：学会誌委員会）

セミナーへの事前申込は不要ですが、大会への参加申込者を対象としています（定員 500 名）。皆さまのご参加をお待ちしております。

学会のこれからを支える財政健全化 —入会金廃止案・会費等の見直しについて—

[11 月 29 日（日）12:00 ～ 12:40（40 分）]

主催：公益社団法人日本語教育学会 会長・副会長

日本語教育学会では、第 3 次中期計画の策定を通じて、今後も安定して事業を続けていくための課題を検討してきました。なかでも財政の健全化は、早急に取り組む必要のある課題です。2025 年度に設置した財政検討ワーキンググループの答申を踏まえ、理事会を中心に検討した結果、年会費等の見直しを含め、財政健全化に向けた具体的な方策が必要だとの認識に至りました。その後の議論の中では、年会費等の見直しに加え、入会金の廃止、会員区分の見直し、会員向け研修の充実など、新規入会や継続的な学会参加を促す方策についても検討を重ねています。

年会費等の変更には代議員総会の承認が必要ですので、これまで代議員向けの説明会や意見交換会を行い、そこで寄せられた意見も踏まえて具体化を進めてきました。これらの方策については、2027 年 1 月の臨時代議員総会でご審議いただく予定です。承認された場合は、2027 年度から新制度を導入する予定です。総会に先立ち、会員のみなさまからもご意見を伺うため、説明会を開催いたします。ぜひご参加ください。